

神殿再建の反対；真の礼拝へ エズラ 4:1-5

1. ユダとベニヤミンの敵たちは、捕囚から帰って来た人々が、イスラエルの神、主のために神殿を建てていると聞いて、ゼルバベルと一族のかしらたちのところに近づいて来て、言った。「私たちも、あなたがたといっしょに建てたい。私たちは、あなたがたと同様、あなたがたの神を求めているのです。アッシリヤの王エサル・ハドンが私たちをここに連れて来た時以来、私たちはあなたがたの神に、いけにえをささげてきました。」(4:1-2)
 - a. 何という恵みだろう。クロス王によって神殿再建が命じられ、ネブカデネザルが奪った主の宮の用具が取り戻されたが、今度は神を礼拝するために神殿再建を手伝いたいという外国人グループが現れた。
 - b. しかし物事はうわべだけでは判断できない。彼らは神を礼拝しいけにえを捧げ、自分たちも土地の所有権を持つので神殿の再建を見たいと申し出てきたが、聖書は彼らをユダとベニヤミンの敵だと言っている。彼らはおそらくサマリヤ人で、彼らの最大の罪はヤハウエを周りの神々と混同したことであった。
 - c. 神を信じる私たちは、神を純粋で真実なお方として礼拝しているだろうか？真の礼拝者は霊とまことをもって神を礼拝する(ヨハネ 4:24)。使徒や預言者によって与えられた神の言葉によれば(エペソ 2:20)、御霊は神の賜物として与えられ、まことは御霊によって啓示される。
2. しかし、ゼルバベルとヨシュアとその他のイスラエルの一族のかしらたちは、彼らに言った。「私たちの神のために宮を建てることについて、あなたがたと私たちとは何の関係もない。ペルシヤの王、クロス王が私たちに命じたとおりに、わたしたちだけで、イスラエルの神、主のために宮を建てるつもりだ。」(4:3)
 - a. 神殿の再建にサマリヤ人が加わっても良いかという判断はゼルバベルだけの意見ではなく大祭司ヨシュアやそのほかの長老たちも審議に加わったことがわかる。
 - b. 集合的には彼らはこのグループが神殿再建に加わる危険を承知していたと思う。一番問題にされたのは礼拝の純粋さと他の神々が混じり込む危険であった。
 - c. 神を礼拝したい気持ちがある人はだれでも一緒に礼拝に参加すべきだと思うが、正しい礼拝の仕方、間違った礼拝の仕方がある。真実と偽りの区別が付きにくいように、背信の教会と正しい教会は見分けが付きにくい、偽りと真実の教会と信者はその実によって区別できる(マタイ 7:15-20、ガラテヤ 5:22-23)。
3. すると、その地の民は、建てさせまいとして、ユダの民の気力を失わせ、彼らをおどした。さらに、議官を買収して彼らに反対させ、この計画を打ちこわそうとした。このことはペルシヤの王ダリヨスの治世の時まで続いた。(4:4-5)
 - a. 真の礼拝者のように見せかけ援助しようとしたこのグループの人々は、申し出が断られた時の反応を見ればわかるように、実は偽善者だった。(拒否された時の態度というのは往々にして心のうちを表す。)
 - b. 敵は脅迫やわいろ、ぬれぎぬを使ってやってくる。(エズラ 4:6-16)。このような外部からの攻撃によって神殿再建は数年も中断されることになる。内部の混乱も原因の一つになったという預言者の言葉もある。
 - c. 私たちが霊とまことをもって神を礼拝する時、必ず反対がある。神は真の礼拝者を求めておられるからである。